

科目名	歯科技工管理学 I		
授業担当者	①南 弘之 ②学校長 ③教育担当委員 ④竹之内 佳久 ⑤大貝 悠一		
開講時期	1年次前期、後期		
指定単位(時数)	【授業方法/授業回数】	2単位(54時間)	【講義/27回】①19回、②1回、③1回、④5回、⑤3回
評価方法	1年次前期、後期試験で評価する。教員②～⑤からはいずれかの試験に包含して実施し、評価する。		
成績評価基準	①18回以上、②～⑤全部の受講をもって受験可とする。よって、未履修分は補習を受けて課題提出を行い、担当者の承認を得れば受験は有効となる。さらに試験においては得点60%以上を合格とし、それ以下は再試験1回を受験しなければならない。		
参考図書等	最新歯科技工士教本「顎口腔機能学」全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬 配布資料 他		

#### 学習目標

歯科医療の概要、歯科医療における歯科技工の位置づけ、医療技術者としての心構えを修得する。

#### 授業計画

回	担当	授業題目	授業内容
1	②	歯科医療と歯科技工	医療と歯科医療と歯科技工
2	③	歯科医療と歯科技工	医療と歯科医療と歯科技工
3	①	歯科医療と歯科技工	医療と歯科医療
4	①	歯科医療と歯科技工	歯科医療の目的 歯科医療機関の役割
5	①	歯科医療と歯科技工	歯科医療関係職種 歯科技工と歯科技工学
6	①	歯科技工士の役割	歯科技工士の業務、倫理、現状
7	①	顔および口腔組織の形態と機能	顔の形態と機能
8	①	顔および口腔組織の形態と機能	口腔の形態
9	①	顔および口腔組織の形態と機能	口腔の機能
10	①	歯科疾患と周囲組織の変化	歯の異常
11	①	歯科疾患と周囲組織の変化	歯列不正・硬組織疾患
12	①	歯科疾患と周囲組織の変化	歯髄の疾患・歯周組織疾患
13	①	歯科疾患と周囲組織の変化	顎関節症、舌および口腔軟組織疾患、顎骨および顔面の疾患、歯科疾患の現状
14	①	歯科臨床と歯科技工	硬組織疾患と歯科技工
15	①	歯科臨床と歯科技工	歯の欠損と歯科技工
14	①	歯科臨床と歯科技工	歯周疾患と歯科技工
15	①	歯科臨床と歯科技工	歯列不正と歯科技工
16	①	歯科臨床と歯科技工	口腔外科疾患と歯科技工 顎関節症と歯科技工
17	①	歯科臨床と歯科技工	スポーツ歯科と歯科技工
18	①	歯科臨床と歯科技工	歯科技工のデジタル化
19	①	歯科臨床と歯科技工	歯科法医学と歯科技工
20	④	歯科技工の管理と運営	歯科技工の作業環境
21	④	歯科技工の管理と運営	歯科技工業務の運営
22	④	歯科技工の管理と運営	歯科技工における衛生管理
23	④	口腔と全身の健康管理	加齢現象、咀嚼と健康、歯および口腔の衛生管理
24	④	口腔と全身の健康管理	健康政策 在宅歯科医療 災害時の歯科医療
25	⑤	医療における危険因子	微生物の病原性や経路、症状、事故後の対処
26	⑤	感染予防 消毒	スタンダードプリコーション
27	⑤	感染予防 消毒	感染予防 補綴物の消毒方法 消毒剤の種類

#### ・実務経験

本科目は歯科医師として実務経験がある教員による授業である

科目名	歯科技工管理学Ⅱ 関係法規		
授業担当者	専任教員 有村史朗、内上堀達志		
開講時期	2年次前期		
指定単位(時数)	【授業方法/授業回数】	1単位(16時間)	【講義/8回】
評価方法	2年次前期試験で評価し、1単位を与える。		
成績評価基準	全ての受講をもって受験可とする。よって、未履修分は補習を受けて課題提出を行い、担当者の承認を得れば受験は有効となる。さらに試験においては得点60%以上を合格とし、それ以下は再試験1回を受験しなければならない。		
参考図書等	最新歯科技工士教本「歯科技工管理学」全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬		

学習目標

国家資格を有する医療人として遵守しなければならない遵法精神を養うための一連の流れを理解する。

授業計画

回	授業題目	授業内容
1	衛生行政	法律の概要、衛生行政の概要
2	衛生行政	歯科衛生行政、歯科技工士と衛生行政の組織
3	歯科技工士法	総則、免許
4	歯科技工士法	試験
5	歯科技工士法	業務
6	歯科技工士法	歯科技工所
7	歯科技工士法	雑則・罰則
8	医療法・歯科医師法・歯科衛生士法	医療法、歯科医師法、歯科衛生士法

・実務経験

本科目は歯科技工士として教育経験がある教員による授業である

科目名	歯周病学		
授業担当者	松山 孝司		
開講時期	1年後期		
指定単位(時数)	【授業方法/授業回数】	1単位(16時間)	【講義/8回】
評価方法	2年次前期試験で評価し、1単位を与える		
成績評価基準	全ての受講をもって受験可とする。よって、未履修分は補習を受けて課題提出を行い、担当者の承認を得れば受験は有効となる。さらに試験においては得点60%以上を合格とし、それ以下は再試験1回を受験しなければならない。		
参考図書等	スライド 配布資料		

#### 学習目標

歯周疾患(歯周病)は齲蝕とともに歯を失う大きな原因の一つである。高齢化社会を迎えた現在、その予防と治療の重要性に関心が高まってきている。

歯周病学は歯科技工分野に活かすことを目的に歯周組織や歯周病の基礎知識と予防、治療法、メンテナンスを学習する。

#### 授業計画

回	授業題目	授業内容
1	歯周病学総論	歯周組織の構造と機能、歯周治療学
2	歯周疾患	歯周疾患と成り立ち、歯周疾患の原因と分類
3	歯周治療	歯周疾患の疫学、歯周治療の順序、検査方法
4	歯周治療	歯周基本治療 (口腔清掃、スケーリング、ルートプレーニング、再評価)
5	歯周治療	根分岐部病変の治療、咬合治療
6	歯周治療	歯周外科治療
7	歯周治療	固定、修復・補綴治療
8	歯周治療	メンテナンス・SPT

#### ・実務経験

本科目は歯科医師として実務経験がある教員による授業である

科目名	口腔・顎顔面解剖学 I 歯牙解剖		
授業担当者	吉田 雅司		
開講時期	1年次前期		
指定単位(時数)	【授業方法／授業回数】	1単位(22時間)	【講義／11回】
評価方法	1年次前期試験、後期試験で評価し、1単位を与える。		
成績評価基準	10回以上の受講をもって受験可とする。よって、未履修分は補習を受けて課題提出を行い、担当者の承認を得れば受験は有効となる。さらに試験においては得点60%以上を合格とし、それ以下は再試験1回を受験しなければならない。		
参考図書等	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬		

学習目標

歯の形を理解していく中で、口腔・顎顔面領域の形態と機能を修得する

授業計画

回	授業題目	授業内容
1	歯の概説	歯の定義 歯の機能 歯の生物学的特性 歯の植立様式 歯の外形と内形 歯の種類と分類
2	歯の概説	歯の記号と歯式 歯の名称 歯の形の概説
3	永久歯の形態	切歯(上顎)
4	永久歯の形態	切歯(下顎)
5	永久歯の形態	犬歯(上下顎)
6	永久歯の形態	大臼歯(上顎)
7	永久歯の形態	大臼歯(下顎)
8	永久歯の形態	小臼歯(上顎)
9	永久歯の形態	小臼歯(下顎)
10	歯の異常	歯数、歯冠、歯根の異常 歯の重複 色調の異常 萌出異常
11	乳歯	乳歯の機能と特色

・実務経験

本科目は歯科医師として実務経験がある教員による授業である

科目名	口腔・顎顔面解剖学Ⅱ		
授業担当者	鎌田 ユミ子		
開講時期	1年次後期		
指定単位(時数)	【授業方法/授業回数】	1単位(26時間)	【講義/13回】
評価方法	1年次後期試験、2年次後期試験で評価し、1単位を与える。		
成績評価基準	12回以上の受講をもって受験可とする。よって、未履修分は補習を受けて課題提出を行い、担当者の承認を得れば受験は有効となる。さらに試験においては得点60%以上を合格とし、それ以下は再試験1回を受験しなければならない。		
参考図書等	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」 全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬		

学習目標

歯の形を理解していく中で、口腔・顎顔面領域の形態と機能を修得する

授業計画

回	授業題目	授業内容
1	歯の発生	細胞と組織の発生と構造、歯の発生、歯の萌出と脱落
2	歯と歯周組織	歯の組織、歯周組織、歯や歯周組織の加齢現象
3	歯と歯周組織	歯の組織、歯周組織、歯や歯周組織の加齢現象
4	歯列・咬合	歯列、歯列弓、咬合彎曲、隣在歯との関係
5	歯列・咬合	上下歯列弓の位置関係、切歯の咬合関係、歯の植立
6	頭蓋の骨	脳頭蓋骨、顔面頭蓋骨
7	頭蓋の骨	頭蓋の全景
8	口腔周囲の筋	浅頭筋、深頭筋
9	口腔周囲の筋	舌骨筋群
10	顎関節	顎関節の構造、下顎の運動
11	口腔	口腔の隣接器官、口腔、口蓋
12	口腔	唾液腺、舌、咽頭と喉頭
13	まとめ	まとめ

・実務経験

本科目は歯科医師として実務経験がある教員による授業である

科目名	口腔・顎顔面解剖学 I 実習		
授業担当者	専任教員		
開講時期	1年次前期、後期		
指定単位(時数)	【授業方法／授業回数】	4単位(144時間)	【実習／72回】
評価方法	1年次後期、2年次前期、後期試験で評価し、各1単位を与える。試験以外の部位は完成物を評価し、1単位を与える。		
成績評価基準	実習においては全て受講しなければならないため、未履修分は補習を受けて課題提出を行うこと。		
参考図書等	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」 全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬 配布資料 他		

#### 学習目標

歯の形態について学んだことを、石膏柱へ立体的に彫刻することにより、臨床技工に必要な個々の歯の再現能力とそれに伴う観察力を身につける。

#### 授業計画

実習項目	回数	授業内容
球体	1	石膏の練和と形成
	2	ノギスの扱い方 切り出しナイフの扱い方 円柱の彫刻
	3	上部曲面の形成
	4	下部曲面の形成
	5	彫刻刀(エバンス)の扱い方
右上1	1,2	STEP彫刻
	3,4	STEP彫刻
	5,6	STEP彫刻
	7,8	歯頸線の形成、歯根形態、面仕上げ
右上3	1,2	STEP彫刻
	3,4	STEP彫刻
	5,6	歯頸線の形成、歯根形態、面仕上げ
右下3	1~4	STEP彫刻(右上3のSTEP彫刻に準ずる)
右上6	1,2	STEP彫刻
	3,4	STEP彫刻
	5,6	STEP彫刻 頬舌側面および隣接面の浮彫像形成
	7,8	咬合面の小窩裂溝、副隆線の形成
	9,10	歯頸線の形成、歯根形態、面仕上げ
右下6	1,2	STEP彫刻
	3,4	STEP彫刻
	5,6	浮彫像形成、歯頸線形成
	7,8	咬合面の小窩裂溝、副隆線の形成、仕上げ
右上4	1,2	STEP彫刻
	3,4	咬合面の溝、隆線の形成、仕上げ
	5,6	咬合面の溝、隆線の形成、仕上げ
右下4	1~4	STEP彫刻
	5	咬合面の溝、隆線の形成、仕上げ
右下5	1~4	STEP彫刻
	5	咬合面の溝、隆線の形成、仕上げ
右上5	1~4	STEP彫刻、右上4のSTEP彫刻に準ずる
右上7	1~4	STEP彫刻、右上6のSTEP彫刻に準ずる
右下7	1~4	STEP彫刻、右下6のSTEP彫刻に準ずる
右上2	1~4	STEP彫刻、右上1のSTEP彫刻に準ずる
右下1	1~4	STEP彫刻、右上1のSTEP彫刻に準ずる
右下2	1~4	STEP彫刻、右上1のSTEP彫刻に準ずる

#### ・実務経験

本科目は歯科技工士として教育経験がある教員による授業である

科目名	顎口腔機能学		
授業担当者	是枝 美行		
開講時期	1年次後期、2年次前期、後期		
指定単位(時数)	【授業方法/授業回数】	2単位(36時間)	【講義/18回】
評価方法	2年次前期試験、後期試験で評価し、各1単位を与える。		
成績評価基準	17回以上の受講をもって受験可とする。よって、未履修分は補習を受けて課題提出を行い、担当者の承認を得れば受験は有効となる。さらに試験においては得点60%以上を合格とし、それ以下は再試験1回を受験しなければならない。		
参考図書等	最新歯科技工士教本「顎口腔機能学」全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬		

学習目標

顎口腔系を構成するそれぞれの分野の概略を修得し、生体に調和した形態の補綴装置の在り方を知る。

授業計画

回	授業題目	授業内容
1	顎口腔系の形態	歯と歯列 顎口腔系を構成する骨 顎口腔系に関する筋
2	顎口腔系の形態	顎関節 その他の軟組織 顎口腔系の神経支配
3	顎口腔系の機能	顎口腔系とその機能 顎口腔系の機能と形態の維持
4	顎口腔系の機能	下顎運動の分析に関する基準点・基準面
5	顎口腔系の機能	咬合に関する平面
6	下顎位	下顎位
7	下顎運動	下顎運動の種類 下顎の基本運動
8	下顎運動	下顎の限界運動
9	下顎運動	下顎の機能運動
10	下顎運動	下顎の機能運動
11	歯の接触様式	歯の形態と機能
12	歯の接触様式	咬頭嵌合位における咬合接触
13	歯の接触様式	偏心位における咬合接触(咬合様式)
14	歯の接触様式	偏心位における咬合接触(咬合様式)
15	歯の接触様式	咬合干渉
16	咬合器	咬合器の使用目的 咬合器の機構と分類
17	咬合器	フェイスボウトランスファー 咬合採得 咬合器の使用手順
18	咬合検査と顎機能障害	咬合検査 顎機能障害

・実務経験

本科目は歯科医師として実務経験がある教員による授業である

科目名	顎口腔機能学 実習		
授業担当者	是枝 美行 末永 健市		
開講時期	2年次後期		
指定単位(時数)	【授業方法/授業回数】	1単位(32時間)	【実習/16回】
評価方法	実習終了後、レポート評価で1単位を与える。		
成績評価基準	実習においては全て受講しなければならないため、未履修分は補習を受けて課題提出を行うこと。		
参考図書等	最新歯科技工士教本「顎口腔機能学」全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬 配布資料 他		

学習目標

顎口腔系を構成するそれぞれの分野の概略を修得し、生体に調和した形態の補綴装置の在り方を知る。

授業計画

回	授業題目	授業内容
1～4	精密印象採得	シリコン印象採得
5～7	模型製作	スプリットキャスト模型製作
8	咬合器の取り扱い	咬合器の各部名称、セッティング
9	①フェイスボウトランスファー	フェイスボウ記録
10	①フェイスボウトランスファー	上顎マウント
11	②チェックバイト採得	ワックスとシリコンを用いたチェックバイト採得
12	②チェックバイト採得	チェックバイトを用いた下顎マウント
13	③咬合器調整	チェックバイトを用いた咬合器調整
14	③咬合器調整	チェックバイトを用いた咬合器調整
15	④咬合検査	咬合器調整
16	④咬合検査	咬合検査

・実務経験

本科目は歯科医師として実務経験がある教員による授業である



科目名	歯科理工学 I		
授業担当者	有川 裕之		
開講時期	1年前期～後期 2年前期		
指定単位(時数)	【授業方法／授業回数】	3単位(76時間)	【講義／38回】
評価方法	1年次前(10回)まで、後期、2年次前期試験で評価し、各1単位を与える。		
成績評価基準	35回以上の受講をもって受験可とする。よって、未履修分は補習を受けて課題提出を行い、担当者の承認を得れば受験は有効となる。さらに試験においては得点60%以上を合格とし、それ以下は再試験1回を受験しなければならない。		
参考図書等	最新歯科技工士教本「歯科理工学」全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬		

学習目標

歯科に用いる有機材料・無機材料・複合材料に関する知識、制作方法に関する適切な知識に加え、最新の歯科技工技術にも順応できる知識を修得する。

授業計画

回	授業題目	授業内容
1	歯科技工と歯科理工学	歯科理工学の意義と目的、歯科と歯科技工士の果たす役割、歯科用装置技工の安全性と環境
2	総括	演習
3	総括	演習
4	歯科材料の性質	物質の構造
5	歯科材料の性質	機械的性質と試験法、物理的性質
6	歯科材料の性質	機械的性質と試験法、物理的性質
7	歯科材料の性質	化学的性質、生物学的性質
8	歯科材料の性質	化学的性質、生物学的性質
9	歯科材料の性質	化学的性質、生物学的性質
10	印象と模型製作	印象材
11	印象と模型製作	印象材
12	印象と模型製作	印象材
13	印象と模型製作	印象材
14	印象と模型製作	模型材
15	印象と模型製作	模型材
16	印象と模型製作	模型材
17	レジン成形	義歯床用レジン
18	レジン成形	義歯床用レジン
19	レジン成形	義歯床用レジン
20	レジン成形	義歯床用レジン
21	レジン成形	義歯床関連材料
22	レジン成形	義歯床関連材料
23	レジン成形	歯冠用硬質レジン、その他のレジン
24	レジン成形	歯冠用硬質レジン、その他のレジン
25	セラミック成形	歯冠用セラミックス、長石系陶材
26	セラミック成形	歯冠用セラミックス、長石系陶材
27	セラミック成形	金属焼付用陶材
28	セラミック成形	金属焼付用陶材
29	セラミック成形	加熱加圧型セラミックス
30	セラミック成形	ジルコニア、その他のセラミック材料
31	その他の歯科材料	合着剤・接着材
32	補綴装置と修復物の仕上げ	意義と目的、成形体の仕上げ
33	補綴装置と修復物の仕上げ	機械研磨・化学研磨・表面仕上げ・研磨効率・器械・器具
34	補綴装置と修復物の仕上げ	機械研磨・化学研磨・表面仕上げ・研磨効率・器械・器具
35	新しい加工技術	CAD/CAM
36	新しい加工技術	CAD/CAM
37	新しい加工技術	CAD/CAM
38	補綴装置と修復物の安定性	レジン・セラミック・金属

・実務経験

本科目は大学教員として教育経験がある教員による授業である

科目名	歯科理工学 I (実習)		
授業担当者	有川 裕之		
開講時期	1年前期～後期		
指定単位(時数)	【授業方法／授業回数】	1単位(32時間)	【講義／16回】
評価方法	1年次後期、レポート評価し、1単位を与える。		
成績評価基準	実習においては全て受講しなければならないため、未履修分は補習を受けて課題提出を行うこと。		
参考図書等	最新歯科技工士教本「歯科理工学」全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬		

#### 学習目標

歯科材料・歯科技工用材料を実験を通じてそれぞれが持つ性質、特性を十分理解する。

#### 授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1～4	印象材	寸法安定性 弾性ひずみと永久ひずみ	印象材の寸法安定性について理解を深める
5～8	ワックス	応力緩和による変形 フロー	ワックスの特性を理解する
9～12	石膏	硬化時間 硬化膨張	各種石膏の硬化時間、硬化膨張を理解する
13～16	歯科用アクリルレジン	加熱重合レジンのキュアリング 重合体の曲げ強さ	歯科用レジンの曲げ強さについて理解する

#### ・実務経験

本科目は大学教員として教育経験がある教員による授業である

科目名	歯科理工学Ⅱ		
授業担当者	藤井 孝一		
開講時期	1年前期～後期 2年前期		
指定単位(時数)	【授業方法／授業回数】	3単位(76時間)	【講義／38回】
評価方法	1年次前(10回まで)、後期、2年次前期試験で評価し、各1単位を与える。		
成績評価基準	35回以上の受講をもって受験可とする。よって、未履修分は補習を受けて課題提出を行い、担当者の承認を得れば受験は有効となる。さらに試験においては得点60%以上を合格とし、それ以下は再試験1回を受験しなければならない。		
参考図書等	最新歯科技工士教本「歯科理工学」全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬		

学習目標

歯科に用いる金属材料・無機材料・その他の材料に関する知識、制作方法に関する適切な知識に加え、最新の歯科技工技術にも順応できる知識を修得する。

授業計画

回	授業題目	授業内容
1	歯科技工と歯科理工学	歯科理工学の意義と目的、歯科と歯科技工士の果たす役割、歯科用装置技工の安全性と環境
2	歯科技工と歯科理工学	歯科理工学の意義と目的、歯科と歯科技工士の果たす役割、歯科用装置技工の安全性と環境
3	総括	演習
4	総括	演習
5	総括	演習
6	総括	演習
7	総括	演習
8	総括	演習
9	歯科材料の性質	物質の構造・機械的性質
10	歯科材料の性質	物質の構造・機械的性質
11	歯科材料の性質	機械的性質・化学的性質・生物学的性質
12	歯科材料の性質	機械的性質・化学的性質・生物学的性質
13	歯科材料の性質	化学的性質・生物学的性質
14	原型製作	原型材料
15	原型製作	原型材料
16	原型製作	原型材料
17	原型製作	原型材料
18	金属成形	歯科用合金
19	金属成形	歯科用合金
20	金属成形	金合金
21	金属成形	金合金
22	金属成形	銀合金
23	金属成形	銀合金
24	金属成形	非貴金属合金
25	金属成形	非貴金属合金
26	金属成形	鋳造
27	金属成形	鋳造
28	金属成形	鋳造
29	金属成形	鋳造
30	金属成形	鋳造
31	金属成形	鋳造
32	金属成形	鋳造
33	金属成形	鋳造
34	金属成形	金属の加工・金属の接合
35	金属成形	金属の加工・金属の接合
36	金属成形	合金の熱処理
37	金属成形	合金の熱処理
38	歯科理工学まとめ	グループディスカッション・発表

・実務経験

本科目は大学教員として教育経験がある教員による授業である

科目名	歯科理工学Ⅱ(実習)		
授業担当者	藤井 孝一		
開講時期	1年前期～後期		
指定単位(時数)	【授業方法／授業回数】	1単位(32時間)	【講義／16回】
評価方法	1年次前(10回まで)、後期、2年次前期試験で評価し、各1単位を与える。		
成績評価基準	実習においては全て受講しなければならないため、未履修分は補習を受けて課題提出を行うこと。		
参考図書等	最新歯科技工士教本「歯科理工学」全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬		

#### 学習目標

歯科材料・歯科技工用材料を実験を通じてそれぞれが持つ性質、特性を十分理解する。

#### 授業計画

回	授業題目	授業内容
1～4	埋没材	硬化膨張
5～7	埋没材	吸水膨張
8～11	埋没材	熱膨張
12～16	金属	精密鑄造 鋳付け

#### ・実務経験

本科目は大学教員として教育経験がある教員による授業である